Coffee Market Report

July 2018

INTERNATIONAL COFFEE ORGANIZATION

7月、コーヒー価格は引き続き低迷した

2018年7月、ICO複合指標価格月間平均値は2.9％下がり、107.20米セント/B となったが、これは月間平均値が106.20米セント/B だった2007年7月以来の最安値である。全コーヒーグループの指標価格が下がったが、最も大きく下落したのは4％下げ110.54米セントを付けたブラジルナチュラルだった。

2018年7月、ICO複合指標価格月間平均値は2.9％下がり、107.20米セント/LBとなったが、これは月間平均値が106.20米セント/LBだった2007年7月以来の最安値である。全コーヒーグループの指標価格が下がったが、最も大きく下落したのは4％下げ110.54米セントを付けたブラジルナチュラルだった。

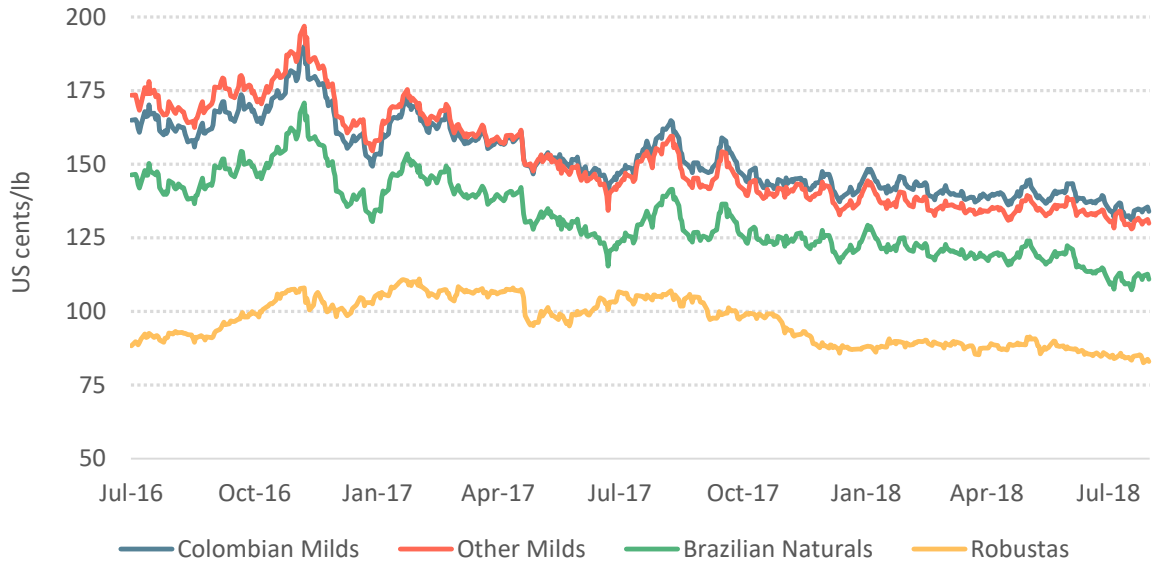
図 1: ICO 日次複合指標価格

© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

コーヒー価格は、2017/18年度に入りだらだらと下がっており、月間平均値は10か月の内7ヶ月が前月比マイナスとなっている。2018年7月のICO複合指標価格月間平均値は前月比2.9％下げ107.2米セント/LBとなった。これは2007年以来最も安い7月の平均値である。

日次複合指標価格は104.98米セントから109.46米セント/LBの価格幅内で動いた。7月18日に付けた104.98米セント/LBは2014年1月2日以来の105セント割れである。需要は旺盛だが、2017/18年度の供給量が豊富である上に2018/19年度が豊作見通しであることが価格のプレッシャーになっている。

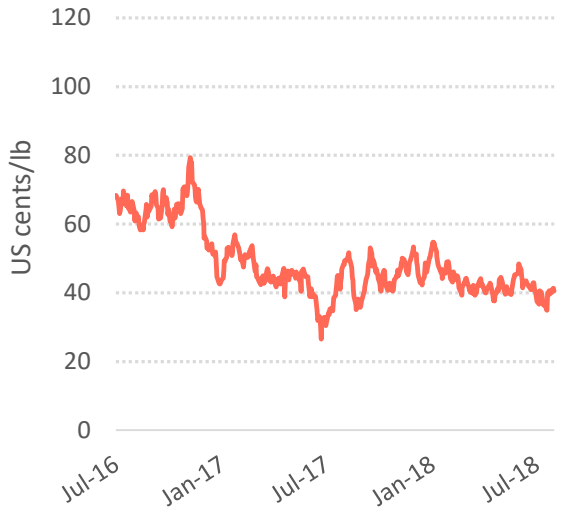
図 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

コーヒー価格は5月に若干上昇したが、その後2ヶ月連続して全てのグループ指標価格が下がった。ブラジルナチュラルの下げが最も大幅で4％マイナスの110.54米セント/LBで、コロンビアマイルドが続き3.3％マイナスの133.92米セント/LBとなった。アザーマイルドは2.6％マイナスの130．60米セント/LBだったので、コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差（ディフェレンシャル）は3.32米セントとなり前月比26.5％縮小した。ロブスタ指標価格の月間平均値は1.9％下げ84.42米セント/LBとなった。ニューヨークとロンドン先物市場で測られるアービトラージの6月平均値は10％縮小し38.50米セントになった。しかし、ICO複合指標価格の価格変動率は0.3ポイント上昇し4.8％となったが、これはアラビカ指標価格の価格変動率は上昇したが、ロブスタの変動率が1.4ポント下げ4.1％になったことによるものである。

図 3:　ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



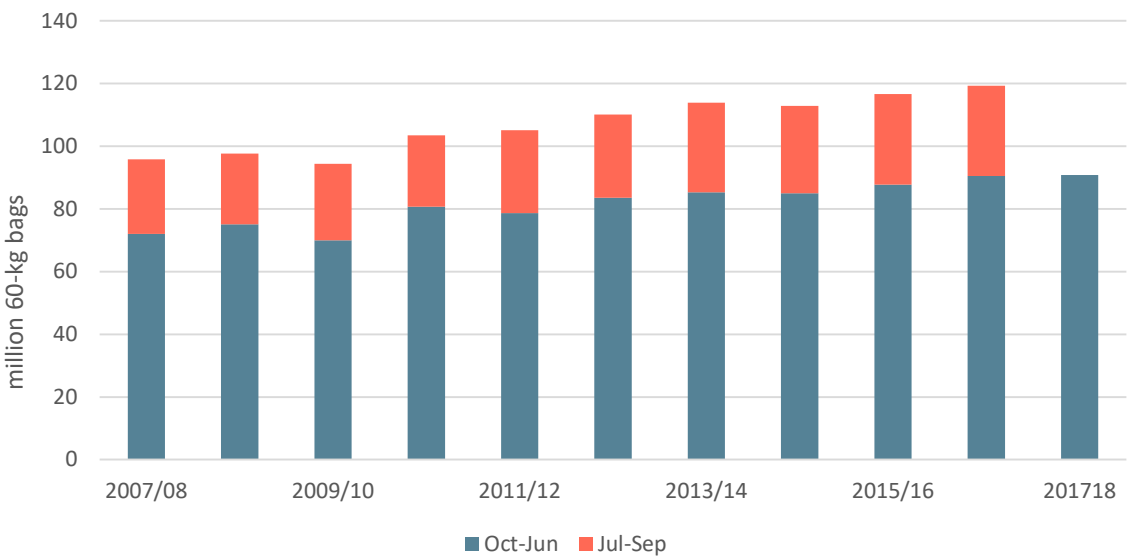
© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018年6月の総輸出量は前年同月比2.6％増の10.45百万袋となった。ロブスタコーヒーの輸出量は7.9％増の3.95百万袋であり、アラビカコーヒーの輸出量は0.4％減の6.51百万袋だった。コロンビアマイルドの輸出量は1.1％増の1.03百万袋、ブラジルナチュラルは2.2％増の2.61百万袋だった。しかし、アザーマイルドの輸出量は2017年6月に比べ3.2％減の2.87百万袋だった。2017年10月から2018年6月までの累積総輸出量は前年同期に比べ0.3％増加した。この増加は主にロブスタコーヒー輸出量の増加によるもので、ロブスタの累積輸出量は前年同期比3.6％増の33.8百万袋になっている。対照的にアラビカコーヒーの2017/18年度最初の9カ月の累積輸出量は1.5%減り57.06百万袋になっている。コロンビアマイルドとブラジルナチュラルの輸出量は夫々6.1％減の10.48百万袋、3.1％減の25.67百万袋となっている。しかし、アザーマイルドの累積輸出量は前年同期比3.1％増加し20.91百万袋である。

図 5: コーヒー全形態の輸出量

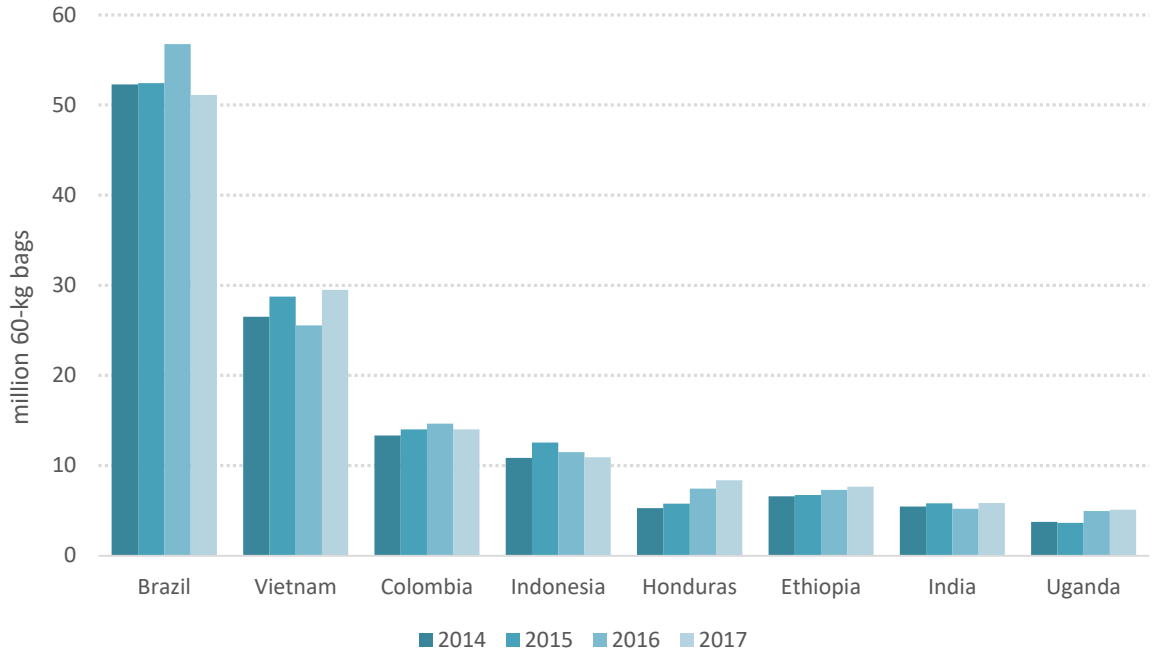


2017/18年度の世界コーヒー生産量は前年度に比べ0.3％少ない158．56百万袋の見通しである。アラビカコーヒー生産量は6.6％少ない97.16百万袋の予想だが、ロブスタコーヒーは2016/17年度に比べ11.5％多い61.4百万袋である。

前年度に比べ8.2％減産予想の南米地域以外は全ての地域が増産見通しである。ブラジルは地域及び世界で最大のコーヒー生産国だが、2017/18年度の生産量は、2016/17年度に比べ10.2％少ない51百万袋の見通しである。しかし、現在70％の収穫が終わっている2018/19年度の同国の生産量は、天候に恵まれ、ロブスタの生産量が回復したお陰で、またアラビカコーヒーが表年に当たる為、増える見通しである。地域で2番目、世界では3番目の生産国、コロンビアの生産量は2016/17年度に比べ4.3％少ない14百万袋の見通しである。

2017/18年度最初の9カ月のブラジルの輸出量は前年同期に比べ5.7％少ない23.47百万袋だったが、これは同国の生産量自体が少なかったことと2018年5月のトラック運転手のストライキが影響したものである。しかし、2018年6月の同国輸出量は2.55百万袋に上っており、この数字は前月比48％増、2017年6月比16.5％多い数字である。2018年6月のコロンビアの輸出量は、前2ヶ月の輸出量が前年度比増加だったにも関わらず、0.92百万袋と3％減少している。同国の2017年10月～2018年6月の累積輸出量は前年同期比6.7％少ない9.49百万袋となっている。

図 6:主要生産国の生産量



2017/18年度のアフリカのコーヒー生産量は、同地域の2大生産国、エチオピアとウガンダが増産予想であり、5.3％増の17.63百万袋の見通しである。エチオピアは過去5年間着実に生産量を増やしており2017/18年度は、2016/17年度に比べ4.8％多い7.65百万袋の見通しである。ウガンダの生産量は、2015/16年度に前年度比2.5％の減産となった後、2016/17年度は増産となり、2017/18年度は前年度比2.8％増の5.1百万袋の見通しである。

エチオピア、ウガンダ両国のコーヒー輸出量は2017年6月に比較して夫々、14.8％減の0.4百万袋、25.6％減の0.32百万袋だった。2017年10月から2018年6月の累積輸出量は前年同期比、エチオピアが7.4％増の2.66百万袋だったが、ウガンダは2.7％減の3.32百万袋だった。

アジア・オセアニア地域の2017/18年度の生産量は前年度比7.9％多い48.44百万袋の見通しだが、これは同地域の生産量記録だった2015/16年度に比べると2.2％少ない数字である。ベトナムは同地域最大の生産国で、生産量は地域の2番目の生産国、インドネシアの2倍以上である。同国の2017/18年度生産量は前年度比15.5％多い29.5百万袋の見通しである。しかし、インドネシアの生産量は、農園の手入れが充分でないことや、一部コーヒー農家が転作したため、5.1％少ない10.9百万袋の見通しになっている。

生産量増加の為、2018年6月のベトナム輸出量は推定2.58百万袋で（2017年6月は1.92百万袋）、2017/18年度最初の9カ月の累積輸出量は19.4％増の21.98百万袋である。一方、対照的にインドネシアの2017年10月～2018年6月生産量は32.6％減の4.14百万袋となっている。インドネシアは生産量の減少に加え、ここ数年国内消費量が増えており、輸出可能数量が減少している。

メキシコ及び中米地域のコーヒー生産量は、同地域5大生産国の一つを除く全てが増産予想となっており、2016/17年度に比べ7％多い21.92百万袋の見通しである。ホンジュラスの生産量は2013/14年度以降年平均16.4％で増産しており2017/18年度は8.35百万袋の見通しである。メキシコの生産量は5.8％増の4百万袋、グアテマラは3.1％増の3.8百万袋である。コスタリカは過去5年連続して減産だったが、2017/18年度は前年度比13.7％多い1.56百万袋の見通しである。ニカラグアの2017/18年度の生産量は前年度比2.9％少ない2.5百万袋の見通しだが、この数字は過去2番目に多い生産量記録である。

ホンジュラスは豊作にも関わらず2018年6月の輸出量は6.9％少ない856001袋で、2017年10月～2018年6月の累積輸出量は前年同期比1.7％少ない5.76百万袋である。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	104.52	138.11	94.89
Sep-17	124.46	151.47	146.56	129.67	99.18	135.95	89.69
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
Nov-17	117.26	144.09	140.90	124.28	91.33	129.96	81.46
Dec-17	114.00	141.62	137.42	121.47	87.59	125.25	78.30
Jan-18	115.60	143.77	138.81	123.67	88.65	127.65	78.90
Feb-18	114.19	141.50	136.28	120.83	89.24	123.82	80.38
Mar-18	112.99	139.45	135.03	119.80	88.18	121.66	79.86
Apr-18	112.56	139.29	134.34	118.76	88.31	120.17	79.36
May-18	113.34	140.26	135.61	119.57	88.74	122.50	79.85
Jun-18	110.44	138.55	134.03	115.10	86.07	120.19	77.40
Jul-18	107.20	133.92	130.60	110.54	84.42	114.06	75.56
% change between Jul-18 and Jun-18							
	-2.9%	-3.3%	-2.6%	-4.0%	-1.9%	-5.1%	-2.4%
Volatility (%)							
Jun-18	4.5%	4.8%	4.7%	5.7%	5.5%	6.9%	5.0%
Jul-18	4.8%	5.1%	5.5%	6.5%	4.1%	7.6%	5.1%
Variation between Jul-18 and Jun-18							
	0.3	0.3	0.8	0.8	-1.4	0.7	0.1

* Average price for 2nd and 3rd positions

表２価格差（米セント/LB)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jun-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Jul-17	5.27	23.22	50.63	17.95	45.36	27.41	43.22
Aug-17	4.91	21.80	52.29	16.89	47.38	30.49	46.26
Sep-17	3.55	19.71	45.87	16.16	42.32	26.16	42.62
Oct-17	3.19	19.81	52.76	16.62	49.57	32.95	48.50
Nov-17	4.20	20.15	54.03	15.95	49.83	33.88	46.95
Dec-17	4.96	20.10	55.12	15.14	50.16	35.02	48.75
Jan-18	5.22	20.67	52.26	15.45	47.04	31.59	43.44
Feb-18	4.42	19.65	51.27	15.23	46.85	31.62	41.80
Mar-18	4.95	20.53	50.98	15.58	46.03	30.45	40.81
Apr-18	4.65	20.69	51.52	16.04	46.87	30.83	42.65
May-18	4.52	23.45	52.48	18.93	47.96	29.03	42.79
Jul-18	3.32	23.38	49.50	20.06	46.18	26.12	38.50
% change between Jul-18 and Jun-18							
	-26.5%	-0.3%	-5.7%	6.0%	-3.7%	-10.0%	-10.0%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Crop year commencing	2014	2015	2016	2017	% change 2016-17
PRODUCTION	**148 559**	**153 561**	**159 047**	**158 560**	**-0.3%**
Arabica	86 180	90 437	103 974	97 161	-6.6%
Robusta	62 379	63 125	*55 073*	*61 399*	11.5%
Africa	15 942	15 783	*16 748*	*17 629*	5.3%
Asia & Oceania	45 478	49 538	*44 913*	*48 439*	7.9%
Mexico & Central America	17 188	17 237	*20 485*	*21 924*	7.0%
South America	69 951	71 003	*76 902*	*70 569*	-8.2%
CONSUMPTION	**151 954**	**155 876**	**158 901**	***161 234***	**1.5%**
Exporting countries	47 197	48 260	49 241	*50 431*	2.4%
Importing countries (Coffee Years)	104 756	107 616	109 660	*110 803*	1.0%
Africa	10 710	10 927	11 174	*11 295*	1.1%
Asia & Oceania	32 641	33 628	34 745	*35 488*	2.1%
Mexico & Central America	5 236	5 301	5 230	*5 317*	1.7%
Europe	51 043	51 829	52 070	*52 312*	0.5%
North America	27 363	28 934	29 564	*29 851*	1.0%
South America	24 960	25 256	26 119	*26 971*	3.3%
BALANCE	**-3 395**	**-2 315**	**146**	**-2 674**	

In thousand 60-kg bags

表 4: 輸出国の総輸出量

	Jun-17	Jun-18	% change	Oct-Jun 2016/17	Oct-Jun 2017/18	% change
TOTAL	**10 192**	**10 454**	**2.6%**	**90 546**	**90 860**	**0.3%**
Arabicas	6 535	6 506	-0.4%	57 912	57 061	-1.5%
Colombian Milds	*1 017*	*1 028*	1.1%	*11 159*	*10 482*	-6.1%
Other Milds	*2 969*	*2 873*	-3.2%	*20 273*	*20 910*	3.1%
Brazilian Naturals	*2 549*	*2 605*	2.2%	*26 480*	*25 669*	-3.1%
Robustas	3 657	3 948	7.9%	32 635	33 800	3.6%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Jul-17	Aug-17	Sep-17	Oct-17	Nov-17	Dec-17	Jan-18	Feb-18	Mar-18	Apr-18	May-18	Jun-18	Jul-18
New York	1.73	1.86	2.03	2.15	2.17	2.23	2.24	2.14	2.21	2.26	2.28	2.33	2.33
London	2.63	2.52	2.52	2.19	2.20	2.09	1.79	1.52	1.37	1.32	1.34	1.14	1.28

In million 60-kg bags

―トピックスー

全米コーヒー協会（NCA）はWilliam Murry CEO名で7月27日に米国コーヒー業界で今最も注目されているカリフォルニア州のプロポジション65について次のようなコメントを発表しました。同協会が6月15日に発表した会員情報（Member Alerts）と併せてお届けします。

－１１１－

全米コーヒー協会　　『最新情報：プロポジション６５とは何か』

William Murry

全米コーヒー協会は多くの独立したコーヒーの科学研究がコーヒーのプロポジション 65警告表示義務からの免除提案をサポートするものと確信しており、現在提案されている免除法案が承認されることを支援するつもりである。

コーヒーとカリフォルニア州のプロポジション65法案､いわゆる『プロポジション６５、コーヒーと癌』について本年これまでに重要な進展が見られた。

ここで現在進行中のこの訴訟について皆さんが知っておくべきこと及び、全米コーヒー協会がカリフォルニア州に於ける『コーヒーと癌』に関する議論に終止符を打つことになるかもしれない新たな法案を支援する為に何をしているかをお知らせする。

背景

カリフォルニア州のプロポジション65は『知る権利』の法律であり、消費者は彼らが発がん物質に晒されているかを知る権利があるというものである。

カリフォルニア州政府はどういった科学物質に『発癌性』があるのかを検討し決定してきた。もし消費者がこれらの化学物質に晒された場合に、民間団体（Private Parties）は供給企業を公共利益に反する者として訴訟することが出来、『発癌警告表示』を強制し、罰金を課すことも出来るのである。

コーヒーは2010年にこのような訴訟の対象となり、プロポジション65にリストアップされているアクリルアミドを含むコーヒー焙煎豆を供給しながら発癌警告表示をしなかったコーヒーメーカーや小売は訴訟された。

しかし、コーヒーそのものには発がん性はなく、実際多くの研究がコーヒーは体に良く抗発癌性さえあることを証明している。

この訴訟はカリフォルニア州法システムの中で方向が変わり、次のような事実があるにも関わらず、裁判所は被告に不利な判決を下した。

１．コーヒーに含まれるアクリルアミドは非常に少量である（10 億分の 2～3 個）。
２．アクリルアミドはコーヒー生豆の焙煎過程で自然に副産物として発生するものである。
３．裁判官は科学成分を単体として見、他の成分と切り離して評価し、食品全体（即ち、コーヒー飲料）を評価していない。

一方、何社かは個別に問題を解決し既にプロポジション 65 警告を表示しているところもある。また予防措置として警告指示を受けいれたところもあるし、警告表示はしないと頑固に拒絶しているところもある。

最近の展開

最近の出来事は事態を更に混乱させている。

１．最近の訴訟に於いては多くの裁判所の判決が原告に有利なものになっており、全てのコーヒーが発がん警告表示をしないといけなくなるという流れになってきている。

２．マスコミの注目度合が増え、コーヒーのように科学的に体に良いと言われるものまでも警告表示をしなければならないのは法律に内在する矛盾であり問題だとの論調が高まっている。

３．連邦政府が新たな法令を準備しており（H.R6022、S.3109,厳格表示法（Accurate Labels Act))、この法律が連邦議会を通過するとプロポジション６５の施行に影響を与える可能性がある。この法律の背景にはコーヒー等の表示が州によって異なり消費者を混乱させているとの問題意識がある。

４．世界保健機関（WHO）はコーヒーと癌についてのレポートを発表した。NCA の会員は WHO の国際がん研究機関（IARC）が慎重な調査の結果 2016 年にコーヒーには発癌性はないとの結論を出したことを覚えておられるだろう。IARC の最終レポートは先月（2018 年 6 月）発行されている。

５．既に警告表示することを決定している会社は、2018 年 8 月末にはプロポジション 65 の警告表示要綱が変わるだろうことにご留意願いたい。

警告表示免除提案について

先月、カリフォルニア州環境保健有害性評価局（OEHHA、プロポジション 65 のカリフォルニア州所管官庁）は、高温で食べ物を調理する際に自然に作られるアクリルアミドとその他

成分のプロポジション65警告表示対象からコーヒーを除外することを提案した。免除提案の理由はカリフォルニア州の理由書に書かれている。

簡単に言えば、同州は詳細にわたる科学調査の結果、『コーヒー生豆を焙煎し抽出する過程で自然に作られる、プロポジション６５に抵触する化学成分は、重要な癌リスクを引き起こさない』ことを信ずるということである。

NCAは多くの独立した科学研究がこの免除提案をサポートすることになると強く確信しており、この提案の通過を促す公聴会を利用して働きかけるつもりである。

次はどうなる？

法（Legal）的には、コーヒー産業は罰則が適用される段階にある。

具体的に罰金はどのように計算されるのだろうか。プロポジション 65 警告表示違反の罰金は１違反に対し一日最大２５００ドルである。裁判所は最近の決定について 7 月 31 日までは原告側の意見を聞く予定であり、その後被告側はOEHHAの決定が出ていないことを理由に罰則適用停止動議を出すことになるだろう。これらの聴取会ではコーヒーに対する強制警告表示の問題も議論されることになる。

更にこれらの問題がここで解決せず結果として裁判所で高額の罰金を課すことが決められた場合には、コーヒー産業（被告）はロスアンゼルスの第2地域裁判所（2nd District Court of Appeal）に上告する選択肢がある。

立法府（Legislative）的には、8月16日にサクラメントでOEHHAのコーヒーの調理で作られる科学成分警告表示免除案に関する公聴会が開かれる。カリフォルニア州政府は同時に2018年8月末までパブリックコメントを受け付ける手はずである。

全米コーヒー協会（NCA）は、免除賛成の立場で公聴会の場で意見を述べる予定であり、またパブリックコメントも提出するつもりである。引き続き何か進展あればお知らせする。

以上

―２２２―　6月15日　会員情報

先程、カリフォルニア州環境保健有害性評価局（OEHHA、プロポジション65を監督する官庁）はコーヒーがプロポジション65規制から免除される効果が期待できる新たな規則を提案すると次のような内容を発表した。

我々は本件の成り行きを注視し、コーヒー業界リーダーとも打ち合わせながら、会員の皆様には何か事態に進展あれば情報をお知らせする。

同局が通知した内容は次の通り：

カリフォルニア州環境保健有害性評価局（Office of Environmental Health Hazard Assessment）は25704区分、カリフォルニア規則コード番号27番7項に次のような追加項目を加えることを提案する、即ちコーヒー生豆を焙煎し抽出する過程で自然に作られる、プロポジション６５に抵触する化学成分は、重要な癌リスクを引き起こさないという一文である。

公的手続き（Public Proceedings）

公聴会（Public Hearing）

公聴会は2018年8月16日に行われるが、ここでは全ての人が本通知で提案された内容について口頭、もしくは筆記にてコメントを述べることが出来る。この公聴会はカリフォルニア州サクラメントの環境保護局ビル2階のSierra公聴室で午前10時から2時、もしくは全ての公聴が終了するまで行われる。

筆記コメント提出期間

筆記によるコメントの受付締め切りは、2018年8月30日午後5時である。全てのコメントは公聴期間終了後OEHHAのウェブサイトに掲載される。

可能な限り筆記情報は、紙ではなく電子的方法で送付願いたい。電子情報はhttps://oehha.ca.gov/commentsに送付して頂きたいが、郵送、ファックス、手交も可能である。

送り先は次の通り：

Monet Vela

Office of Environmental Health Hazard Assessment

P.O. Box 4010

Sacramento, California,95812－4010

TEL:916－323-2517

FAX:916－323-2610

OEHHAはカリフォルニア州公文書法及びその他の法律に縛られており、ある種の情報については要求あれば提供する義務があることを承知頂きたい。貴方がコメントを出す場合、氏名・住所・メールアドレスは第3者の知るところとなるので併せて承知おき願いたい。

参考情報：

OEHHAはプロポジション65を執行する州監督局であり、法令の目的を達成する為に規則を衆知させ、もしくは修正する権限を持っている。この法律は企業が住民を敢えて、発がん性ありと、もしくは繁殖能力を害する毒性があると州が認めた科学物質に晒す場合には、彼

らにその明確かつ理論的な説明を求めるものである。コーヒー木から採取されるコーヒー生豆を焙煎したものから抽出されるコーヒーはユニークで複雑な科学物質の混合物であり、多くの異なった成分を含んでおり、その中にはプロポジション 65 にリストアップされた発癌物質も含まれているが抗発癌性物質も含まれている。

プロポジション 65 のコーヒーを評価している唯一の権威ある機関である IARC（国際がん研究機関）は、全体的に言えばコーヒーは発癌性があると分類することは出来ないとし、ある種の癌のリスクを軽減する効果があるとさえ結論づけている。これらは 2018 年 6 月 13 日に発行された IARC 専門書（Monograph）第 116 巻、『人間への発癌リスクの評価（Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans)、コーヒー・マテ茶・ホット飲料』に掲載されている。

OEHHA は、コーヒー生豆を焙煎し抽出する過程で自然に作られる、プロポジション６５に抵触する化学成分は、重要な癌リスクを引き起こさないと決定した。追加規則を提案するのはこの決定を明らかにするものである。

以上